

背景 & 課題

小学生のうちに深海（関連）について「職業」として興味をもってもらい、次代の海洋専門リーダー人材育成を目指すプロジェクト。

小学生は深海（生物）に興味があるが、好きという純粋な気持ちだけにとどまり、海が、仕事に繋がる事をリアルに感じづらい環境下にある。そんな中、静岡は日本一深い駿河湾を有しており、そこに対する様々な研究や職業がある事から、子どもと海洋関連のプロとの接点を与え、今後の担い手不足解消も見据えた「深海研究スーパーキッズ育成プロジェクト」を開始した。また研究者の研究内容は難解である事も多く、海の研究結果を一般の人に分かりやすく伝える事を目的に映像制作・プレゼン・発表もあわせた企画を立案した。

2022年度実施内容のまとめ

実施① 駿河湾の学び



座学およびフィールドワークを通じて、深海に関する知識インプットと、研究テーマ設定のための気づきを提供

実施② プレゼンの学び



自身の研究テーマおよび未来へのアイデアを、人にわかりやすく伝えるための方法をコーチング

実施③ 発表会



これまでの研究成果と、未来への提言を自分なりの方法でプレゼン。自作の映像も活用した。

量的成果（事業の拡がり）

- ① 初めて取り組むプロジェクトということで、15人集まるか不安があったが新聞、TVを活用した告知等により、45名からのエントリーがあった。
- ② 沼津高専、沼津港深海水族館、駿河湾深海生物館、駿河湾フェリー、MaOI、東海大学、長兼丸など、海洋・深海関連団体との連携が生まれた。
- ③ 新聞、TVでのイベント時の取材に加えて、TV特番（3月放送予定）、新聞でのプロジェクトを総括する特集紙面展開（3月掲載予定）を実施した。

質的成果（次なる展開への芽）

- ① 関連団体との連携で、年間プログラムの雛形ができた。次年度はさらにプログラム内容をブラッシュアップしたい。
- ② 研究生及び保護者によって、参加のモチベーションやポテンシャルの差があったが、結果的に15名が高いレベルのプレゼンテーションを実施することができた。
- ③ 海洋研究に関する研究生たちのレベルアップはもちろん、プロジェクトを通じて課題を乗り越える力、やり切る喜びを感じてもらうことができた。

2022年度 課題点

- ① 初年度ということでエントリーが集まるかの不安があった
- ② プログラムの全体監修を沼津高専に依頼した
- ③ 15名を個別対応することの人的、時間的リソース

2023年度 改善点

- ① 初年度の成果を打ち出し、初年度を上回るエントリーを狙う
- ② 沼津高専の関わりは部分的なものとし、他の団体（東海大学、MaOIなどと共に事務局主導で全体プログラムを構築する）
- ③ 研究生の人数を15人→10人に絞り、長く継続できるものとする

初年度実施して感じた課題と次年度の改善策

課題

個別面談をはじめ、生徒への丁寧なフォロー対応ができた一方で、事務局のリソースの負荷が大きかった

全体監修の海の専門家が不在だった

子供達の成長の度合いが数値として可視化できなかった

事務局がメディア故に、他メディアへの広報活動が実施できていなかった

新聞やテレビを扱うメディアとして、他の海プロ事業の取材対応が不十分だった

(仮)番組制作後の課題と改善点

改善策

今年は熱量でやりきったが、フォロー体制の仕組み化や人員増加など、持続可能な形を模索していく

子供達の研究を深める際、それぞれに合った専門家の紹介や個別面談のアサイン先の紹介がスムーズに進められるよう、全体監修の専門家をアサインする

プロジェクトの開始時と発表会後に、参加親子に海洋の知識やプレゼン力に関するアンケートを実施し、子供達の成長や意識変容の度合いを数値で可視化する

まずは、メディアプロモートを実施し、県内の他メディアの周知をトライしてみる

他の海プロ事業の取材へも積極的に参加し、海プロ全体の認知拡大に貢献していく

(放送後にあらためて検討)

成果報告、全体スケジュール



第1回～3回深海研究基礎講座

沼津高専と連携し、興味関心を深掘りするプログラム実施。駿河湾並びに深海の基礎知識を得て、興味関心を喚起。自分の興味ある内容への見つめなおしや向き合いもした。



選択プログラム / フィールドワーク

沼津高専やMAOI機構と連携した選択プログラム実施。実際に海に携わり働いている人とリアルに接し見分を広げた。映像製作プログラムにつなげるべく深海映像撮影にも挑んだ。



動画制作 / プレゼン講義

人に伝える手法として、映像制作・プレゼンの手法を学習。今までの学びから思考を整理していく工程では自分の本質に迫る発想もしたので、苦勞する子が多かった。

深海研究基礎講座
(6～7月)

自己学習
(8月)

選択プログラム
フィールドワーク
(8～11月)

個別プログラム
(10～12月)

動画制作
プレゼン講義
(11～12月)

発表会
(1月)



自己学習期間

個別学習・課題抽出のフォローとし、事務局側と参加者全員に対し1on1のオンライン面談を実施。



個別プログラム

個人の興味関心に合わせた専門家との個別勉強会を実施。子どもたちは自分で調べ上げられない専門家からの生の意見をインプットし、未来へのアイデア考察のヒントとなった。



研究成果発表会

これまでの研究成果と、未来への提言の発表。自身で制作した動画も活用し、オリジナリティあふれる発表がなされた。特別ゲストにさかなクンを招き、子ども達にとっても忘れられない経験を与えることができた。

成果報告、全体スケジュール

第1回～3回深海研究基礎講座



深海基礎講座①@沼津高専

▼実施内容

今回のプロジェクトの趣旨説明・大津先生による未知なる深海の可能性、駿河湾の紹介、その他自己紹介・アイスブレイクなど

▼成果（研究生の変化、学習したこと・事務局の頑張り）

すぐになじんだ参加者は好きな深海生物について研究生同士で話しあったり打ち解けながら知識を深めていた。

▼課題・改善点

テレビや新聞の取材も入ったため、積極的な参加者はよかったが、自己表現が苦手な子や深海の知識が浅い子などはプレッシャーを感じてしまった感じがあった。初回事業開始前にオンラインでオリエンなどしておいてもよかったかもしれない。

深海基礎講座②@駿河湾フェリー

▼実施内容

駿河湾フェリー船上での学習プログラム、戸田で深海魚を食べ、深海魚直送便を展開している青山氏がコーディネートし、駿河湾深海生物館なども見学した。

▼成果（研究生の変化、学習したこと・事務局の頑張り）

参加者同士のコミュニケーション深化の他、実際に駿河湾・深海生物などを身近に感じられるプログラムを実施し、興味・関心を喚起することが出来た。

▼課題・改善点

フェリーの乗船時間が決まっていたため、かなりタイトなプログラムとなってしまった。2便・3便での往復としたが1便・3便か2便・4便ともう少し時間を確保するべきだった。



深海基礎講座③@沼津高専

▼実施内容

TRIZを活用し発明原理を学んだ。

⇒優れた特許には40の共通パターンがあり、ほぼすべての発明はこれにあてはまることを学ぶ
グソクムシの観察を体験。その後9画面法に基づき自分のやりたい事、調べたいことを洗い出した。

▼成果（研究生の変化、学習したこと・事務局の頑張り）

ここまで得た深海に関する興味関心をTRIZや9画面法などを使い、あぶり出そうとしたが、思うような結果が出なかった。

▼課題・改善点

子どもたちの興味や考えをこの段階であぶり出そうとするのは今考えると無理があった。

来年度以降はプレゼン講座の1回目で実施した自己分析講座等をこの段階で差し込むと最適だと考える。



自己学習



3回目の基礎講座であぶり出せる予定だった、それぞれの学習課題やテーマの落とし込みが出来なかったので、事務局と参加者全員でオンライン個別面談を実施。

その中で課題が見いだしている子には、その課題インプットのヒントや調べ方をアドバイスをし、親御さんへの協力も依頼。あくまで結論を導くのではなく、子どもたちの想像や発想を重視して、寄り添うスタンスを心掛けた。

選択プログラム / フィールドワーク



グループワーク@沼津港深海水族館

▼実施内容

沼津港深海水族館で普段は入れないバックヤードにて飼育員さんの話を聞いたり、生物の生態観察などを実施。

▼成果（研究生の変化、学習したこと・事務局の頑張り）

少しずつ興味関心に差が表れてきた印象。生体の特徴などにも積極的に質問して学ぶ意欲を持っていた。

▼課題・改善点

夏休み期間に実施したので施設が混雑していた。水族館側も協力してくれたが、もう少し時期を考えたほうが集中して学習できる環境を用意できた。



選択プログラム（沼津高専）⇒4名該当

▼実施内容

プログラミングの基礎を学びその後、深海生物を模した深海お掃除ロボット製作をした。

▼成果（研究生の変化、学習したこと・事務局の頑張り）

2日間にわたる長時間プログラムとなったが、子どもたちの頑張りが評価されて2名は賞を受賞した。

▼課題・改善点

2名が海のお掃除 & 夢コンテスト2022で表彰を受ける快挙。

一方、面談時の方向性で事務局側がプログラム選定させたので、参加者が選びやすいプログラムの用意が必要。



選択プログラム（MAOI）⇒11名該当

▼実施内容

深海生物のゲノム研究の紹介やサクラエビの体に生息する乳酸菌の分離（顕微鏡観察の実演を含む）などを行った。さらに海洋を活用した新事業創出などもレクチャー。

▼成果（研究生の変化、学習したこと・事務局の頑張り）

深海（生物含む）の成分や圧力、エネルギーなどに興味を持っている参加者を選定した。

▼課題・改善点

特になし。タイミング・内容的にも家族でいけるようなところではないので、非常に良いインプットだったかと思う。



フィールドワーク（深海撮影）

▼実施内容

長兼丸・沼津高専に協力いただき、深海漁・深海撮影体験を実施した。

▼成果（研究生の変化、学習したこと・事務局の頑張り）

舟に乗って、海へ出て目の前であがるグソクムシやサメを見ることが出来た。長兼丸長谷川さんからは、サメの解体ショーや自身の体験談などを聞いて深海の魅力や未知なる可能性についてインプットできた。

▼課題・改善点

9月台風に直面し、プログラム変更を余儀なくされた。長谷川さんの協力により、なんとか希望者は船上プログラムを実施できた。事務局も10月は毎週のように焼津にてプログラム実施のため、対応した。実施時期は要検討。

個別プログラム（事務局との個別面談）



研究生全員とオンライン個別面談を実施。
発表テーマの設定や、調査方法などについてのアドバイス、その後の専門家面談に向け、アサインする専門家についても意見交換を行った。

・個別プログラムで研究生が得たこと（学んだこと）

テーマ選考や研究の進め方に行き詰まった時の頭の整理。進む方向性についての確認。

・個別プログラムを実施しての課題と改善点

子どもたちの頭の整理のために実施し、もっと回数を増やしても良かったと思うことがある反面、まだテーマ選考や自分の関心ごとがハッキリしていない研究生の場合、「何を相談したらよいかわからない」という段階での面談となったことも。とはいえ、次回も力を入れるべきプログラム。事務局の対応人員も課題。

全30回（15人×2回ずつ）、合計20時間以上にわたる個別面談を実施

個別プログラム（専門家との個別面談）



研究を深めるために、研究生のテーマに沿った専門家をアサインし、個別のオンライン面談を実施（一部、テーマが類似する研究生については、専門家1名に対し、複数の研究生で面談を実施）。

・個別プログラムで研究生が得たこと（学んだこと）

自分では調べられなかった専門的な話を聞くことが出来た。アイデア創発の大きなヒントとなった。

・個別プログラムを実施しての課題と改善点

内容を相談すると専門家の皆さんも非常に強力的に対応してくれた。
時間の調整やアンケートシートなどを事前にやり取りしていたため、ストレスなく実施できた。
同じ講師でも違う内容の相談をしたので、場合によっては待たせてしまう参加者もいたので、このあたり参加する入時間をすらしたりなど検討しても良いかと思う。



成果報告、全体スケジュール

個別プログラム（専門家との個別面談） — 専門家一覧 —



サメのスペシャリスト

北海道大学 名誉教授
仲谷 一宏氏



メンダコの飼育経験者

葛西臨海水族園 飼育展示係
小味 亮介氏



深海魚利活用の実践者

石巻専修大学 准教授
鈴木 英勝氏



極地生物のスペシャリスト

広島大学 大学院
統合生命科学研究科 教授
長沼毅氏



クラゲのスペシャリスト

JAMSTEC
ドゥーグル・リンズィー氏



深海ゴミのスペシャリスト

JAMSTEC
藤倉 克則氏



水圧（深海探査機） の専門家

JAMSTEC
鳥越 充氏



化学合成生態系の専門家

JAMSTEC
藤原 義弘氏



ロボット開発のプロ

株式会社アイエイアイ
堤氏、吉浦氏



プレゼンテーションのプロ

てらこや千聚
村井 智明氏

成果報告、全体スケジュール

個別プログラム（専門家との個別面談） ー相談内容リストー

研究生	研究テーマ	アサインした研究者	どんな話	学習内容	良かった点・課題点
大前琴羽	深海ザメとマイクロプラスチックについて	北海道大学 名誉教授 仲谷一宏氏	サメ型ゴミ回収ロボットの案についてのアドバイス	ミツクリザメなど、サメの体の構造や機能などについて専門家に解説いただいた	仮説で作っていたお掃除ロボの仕組みについてより深い考察が可能になった。
鈴木秀真	健康寿命を延ばすために	北海道大学 名誉教授 仲谷一宏氏	深海ザメは長寿。人も長寿になれるのか？	長寿の最大の理由は、深海の低温環境であることがわかった。	オートファジーに関しては、明確なアドバイスがいただけなかったが、まだまだ未知の領域であるからこそ、想像力が大切であると後押しをいただけた。
中平颯星	ロレンジャー二を使った災害時の捜索、サメの寿命のように人の寿命を延ばす	北海道大学 名誉教授 仲谷一宏氏	ロレンジャー二器官の活用	ロレンジャー二は水中でしか機能しないこと、数によってカバー範囲が広がることはないであろう、というアドバイスがいただけた	ロレンジャー二について、まだまだ研究者も少なく、未知の領域であることが分かった。
早川航太	メンダコの特徴整理と機能を活かしたアイデア	葛西臨海水族園 飼育展示係 小味亮介氏	実際に飼育して得たメンダコの特徴について	メンダコのヒレにはスタビライザー機能がある	実際にメンダコを育てた方の意見をインプットできたのはよかった。一方、まだメンダコについては謎が多かった印象。
大本樹	深海のクラゲのすごいところ	JAMSTEC 超先鋭研究開発部門 超先鋭研究開発プログラム 主任研究員 Dhugal Lindsay (ドゥーグル・リンズィー) 氏	クラゲの様々な特性や現状成されている先端の考察など。	今のクラゲの研究手法や、クラゲの毒や構造から、活用でき得る分野のヒントをいただけた	まだ説明されていない深海クラゲの考察など聞いて、未来のアイデアに活用できそうだった。
井田かれん	化学合成生態系について	JAMSTEC 地球環境部門 海洋生物環境影響研究センター 深海生物多様性研究グループ 上席研究員 藤原義弘氏	熱水噴出孔ってどこにできる？ 化学合成生態系をわかりやすく伝えるためのアドバイス	動画やイラストを活用して、熱水噴出孔のできる場所について学ぶことができた。	内容はかなり高度だったが、資料など投影しながら丁寧に教えてくれた
岡田結人	水圧に負けない(水圧と潜水艦)	JAMSTEC研究プラットフォーム運用開発部門運用部特機グループ 鳥越充氏	水圧とは、なぜ人は生身で深海に行けないのか、についての解説	水圧は全方向からかかること JAMSTECの潜水艦が深海に行くためにどのような構造になっているのか、の解説	深海6500の現状や課題点などを聞き、未来の考察に活かそうだった。
藤嶋汐希	水圧に耐えられる深海スーツは出来るのか？	JAMSTEC 研究プラットフォーム運用開発部門運用部特機グループ 鳥越充氏	水圧とは、なぜ人は生身で深海に行けないのか、についての解説	オスマライトとは何か 深海スーツはどうしたら実現できるか	オスマライトについて、イラストを使って分かりやすく解説いただいた 深海に行く術として、飽和潜水という技術や、肺の中に水を取り込んでしまう研究(動物実験)も行われていることを知った
井藤龍希	タカアシガニ型の深海探査機	JAMSTEC 研究プラットフォーム運用開発部門運用部特機グループ 鳥越充氏	深海探査機を設計する上でのアドバイス	イメージする探査機の具体的な構造や機能に関してアドバイスいただいた	実際に稼働している探査機や潜水艦の機能や構造について解説いただき、自身が考える探査機のイメージを具現化するためのヒントにつながった
佐々木蒼大	日本一深い湾駿河湾のゴミ	JAMSTEC 地球環境部門 海洋生物環境影響研究センター センター長 藤倉克則氏	どうしたらごみを減らせる？ 深海のゴミってどんなものがある？	深海のゴミの多くは、大半が見つかっていないこと、それを明らかにするのは今の技術ではとても難しいこと(海が広すぎる)がわかった	マイクロプラスチックは悪、と考えてしまうが、プラスチックがないと人間の生活を維持できないことをまず理解することが大切。その上で、とはいえ今後に向けてプラスチックを減らしていくことの重要性を考える必要がある、という気付きを得た
岡本理花	駿河湾に住んでいる深海魚をたくさんの人に知ってもらおう!	JAMSTEC 地球環境部門 海洋生物環境影響研究センター センター長 藤倉克則氏	深海のゴミってどうやって除去する？ どんな種類のゴミが存在する？	水上で考えられるゴミのすべてが海中にもあること、取り除くことはとても難しいことがわかった	マイクロプラスチックは悪、と考えてしまうが、プラスチックがないと人間の生活を維持できないことをまず理解することが大切。その上で、とはいえ今後に向けてプラスチックを減らしていくことの重要性を考える必要がある、という気付きを得た
眞田紗希	深海魚(未利用魚)に利活用	石巻専修大学 理工学部 准教授 鈴木英勝氏	未利用魚の活用法について、先駆者へのインタビュー	深海魚の成分の中で、活用できる成分について解説いただいた	地元で活用できるサイクルを考えられると実現性がありそう。当初、家畜の飼料への活用を考えていたが、現在は牛や豚などに動物性たんぱく由来原料の飼料は使えないことが分かった。
土屋友梨花	未利用魚みんなにとっていい活用法とは？	てらこや千聚 村井先生(プレゼン講座の講師)	紙芝居の構成について	発表の際に使用する紙芝居の構成、話し方など表現方法についてアドバイスいただいた	人前で紙芝居を読むことが初めての経験で臆病になっていたところ、背中を押す役割を果たしていただいた。話し方や表情などをアドバイス。
辻知里	オオグソクムシ型お掃除ロボットとオオグソクムシを活かしたデザイン	株式会社アイエイアイ 自動機開発課 堤氏、吉浦氏	ロボット開発のプロセスについて	アイデアを具現化する際に、どんなプロセスを踏むのか、ロボット制作のプロセスをインタビュー。自身のアイデアについても、壁打ちを行なった。	発表に向けた専門家相談というより、とにかくロボット開発者と会って話を聞きたい、という抑えきれない欲求を叶えた感じ。大人も驚くほどの好奇心で、質問が止まなかった。
廣瀬翔太郎	深海魚の「目」を使い太陽光発電の効率を高める	広島大学 大学院統合生命科学研究所 教授 長沼毅氏	ギガントキプリス、ケファロファネスなどについて	生物の特徴を活かした発電方法について、生物の特徴からアドバイスもらえるかと思いきや、効率良い発電のアイデアにまで話が発展。	深海生物の「目」を使った太陽光発電のアイデアから、一つアイデアを足して水素発電にまで発想を広げてもらうことにつながった

動画制作/ プレゼン講座



プレゼン講座

▼実施内容

人に伝えるとは？という意味からプレゼンを教える。個性に応じた手法や伝え方も指南。

▼成果（研究生の変化、学習したこと・事務局の頑張り）

発表のやり方にも個性があり、自分自身の個性についても深堀りさせた。

通常使わない脳を働かせたので中にはぐったり疲れてしまう参加者も。

そこから再度スイッチを入れなおして、自分の本当に伝えたいことを整理した。

発表に向け、個人面談も必要に応じて実施。プレゼンの完成度向上に寄与した。

▼課題・改善点

自分自身と向き合う事もさせたので、この部分は全体講座の初期段階で実施していたらより効果的だったと感じた。内容自体は非常に良かった。



動画制作

▼実施内容

静岡放送より、動画の作り方、編集の仕方、テロップやフリップの使い方などを指南。

▼成果（研究生の変化、学習したこと・事務局の頑張り）

アウトプットの手法としてのバリエーションをインプットした。

実際にTV番組を制作するスタッフが効果的なテロップの使い方や、編集技法を指示。

子どもたちに、動画制作の楽しさや、プレゼンにおいてどの部分を動画で表現するか、など個別でアドバイスをを行った。

▼課題・改善点

参加者のご家庭によりPC・スマホ・タブレットなどデバイスが様々で、動画制作は家庭で補う部分も多いので、内容に差が出る可能性あり。一定期間の貸し出しなども検討すると良いと感じた。



研究成果発表会/修了式

研究成果発表会

▼実施日時

2023年1月28日(土) 13:30-17:00

▼会場

東海大学海洋科学博物館 講堂

▼実施内容

15名の研究生による研究成果並びに未来への提言についてのプレゼンテーション発表会ならびに、半年間のプロジェクトを締めくくる修了式

▼成果(研究生の変化、学習したこと・事務局の頑張り)

子どもたちにとっての思い出となるよう、会場を水族館に設定。特別ゲストにさかなクンを迎え、サプライズで登場させることで、感動的な演出ができた。さかなクンから、記念品として個別メッセージ入りのネームカードを配布。参加者は大いに喜んだ。当日は午前中に最終練習会並びにリハーサルを実施することで、スムーズな進行ができた。15名の研究生が、テーマが類似するものはあったものの、どれもオリジナリティあふれる発表となった。

▼課題・改善点

一人当たりの発表時間に、多少バラつきがあった。時間管理も次年度はさらに意識したい。プレゼン時の引用文献や写真などについても、引用元の表記など、プレゼンとしての完成度を上げたい。次回は「日本財団賞」→「日本財団 海と日本プロジェクト賞」に名称変更。

▼審査員

さかなクン

日本財団 常務理事 海野光行氏

東海大学 海洋学部長 齋藤寛氏

株式会社Verba代表(ことばキャンプインストラクター) 菅澤京子氏



サプライズで登場したさかなクン



さかなクンからプロジェクト修了証の贈呈



全員で集合写真

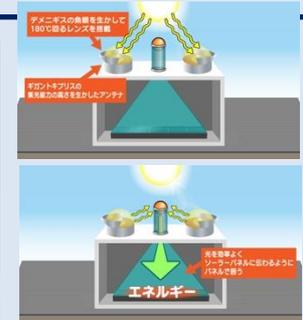
研究発表について（一部抜粋）

★深海研究スーパーキッズ大賞★

廣瀬翔太郎くん（6年）「深海生物を使った次世代エネルギー」

<研究の過程、プレゼンテーションのポイント>

- ①深海生物の「光を集める」機能を、「太陽光発電」に応用するというアイデアの着目点が素晴らしかった
- ②アイデアをデザイン化して伝えるために、フリップを使ってわかりやすく表現した
- ③堂々と、落ち着いた話し方で、プレゼンの練習量の多さが感じられた



集光力の高い「目」をエネルギーに転換させるアイデアをイラストで表現

★日本財団賞★

岡本理花さん（6年）「デザートは美味しく、ゴミは楽しく♪」

<研究の過程、プレゼンテーションのポイント>

- ①エントリー時から、「さかなクんに手作りのお菓子を食べてもらうのが夢」と話しており、今回、発表の中で審査員に自作のお菓子を手渡し、夢を叶えてあげることができた
- ②プロジェクトの序盤で、他のキッズたちの深海に関する知識に驚き、挫折しかけるも、「自分ができることをやりきろう！」と一念発起、当日は見違えるパフォーマンスだった



「さかなクんに手作りのお菓子を食べてもらう」夢が叶った瞬間

★さかなクン賞★

大前琴羽さん（5年）「ゴミ回収深海ザメロボット」

<研究の過程、プレゼンテーションのポイント>

- ①自ら立てた仮説を裏付けるため、海に足を運んで実験したり、施設に行って専門家の話を聞いたり、焼津の長兼丸に計3回乗船したりと、他を圧倒する行動力が見えた
- ②人前で話すことが苦手なため、プレゼンの大半を動画を使って行うという工夫が見られた
- ③自作の深海ザメの骨格標本を披露し、深海生物に関する関心の高さを表現した



動画を主としたプレゼンテーションを実施

研究発表について（一部抜粋）

★プレゼンテーション賞★

早川航太くん（5年）「メンダコの特徴整理と機能を活かしたアイデア」

＜研究の過程、プレゼンテーションのポイント＞

- ①大好きなタコの被り物を被ってのプレゼンを実施、タコへの愛をストレートに表現していた
- ②発表時の姿勢の良さ、大きな声でハッキリとした発声で、聞きやすさはダントツだった
相当な量の練習を積んで当日に臨んだことが、客観的にも見てとれた
- ③メンダコの機能を、浮体式風力発電装置の土台に応用するというアイデアの秀逸さ



大好きなタコの被り物でプレゼン

★特別賞★

井藤龍希くん（5年）「タカアシガニの特性を利用した深海探査機について」

＜研究の過程、プレゼンテーションのポイント＞

- ①タカアシガニの動きを観察するため、何度も水族館に通った
- ②自身のイメージする探査機の動きを表現するため、折り紙を使ったアニメーション動画を制作。
さかなクンからも「大好き！100点！」との評価を受けた。



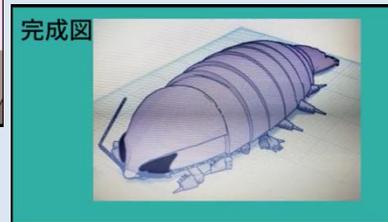
折り紙を使った自作の
アニメーション動画

★海洋研究賞★

辻知里さん（5年）「大グソクムシをいかしたデザイン」

＜研究の過程、プレゼンテーションのポイント＞

- ①オオグソクムシをCADで表現するという、他に類を見ない表現方法を用いた
- ②「ロボット開発者の話を聞きたい！」とロボット開発メーカー担当者と面談し、
ロボット制作のプロセスについて学ぶほどの探究心の高さが窺えた



CADでデザインしたオオグソクムシ

研究発表について（一部抜粋）

土屋友梨花さん（6年）「どうやって使う？未利用魚」

＜研究の過程、プレゼンテーションのポイント＞

- ① 魚由来の成分がどんな食品や医薬品に使われているか、かなり早期から調査を進めていた
- ② プレゼン内容について途中で行き詰まるも、家族や事務局に積極的にアドバイスを求め、新たな方向に向けて進む、という課題解決力の高さを感じた
- ③ 紙芝居を使ったプレゼンを行い、オリジナリティのある発表となった



紙芝居で未利用魚についてプレゼン

佐々木蒼大くん（6年）「日本一深い海、駿河湾のゴミについて」

＜研究の過程、プレゼンテーションのポイント＞

- ① プロジェクトスタート当初から、海洋・深海生物についての圧倒的な知識量を感じた。図鑑やインターネットからの学び、水族館の見学、他の海プロ事業への参加など、日頃から深海を学ぶ時間の多さを感じられた。
- ② 発表時には自らリュウグウノツカイになりきって深海の生物を紹介し、注目を集めた



リュウグウノツカイに変身！

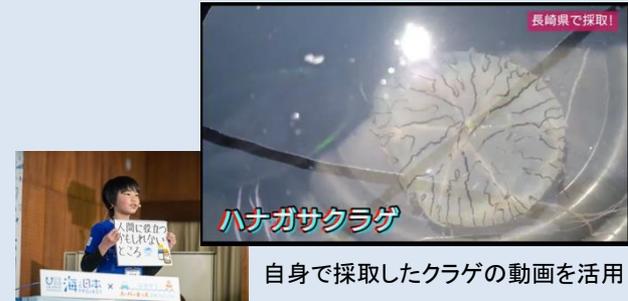


手描きのイラストで動画を構成

大本樹くん（5年）「深海のクラゲのすごいところ」

＜研究の過程、プレゼンテーションのポイント＞

- ① 自分の大好きなクラゲのことを知ってもらうため、「クラゲのことを知らない人」の目線で、クラゲの紹介ができていた。
- ② 毎週海に出かけてクラゲを採取したり、夏休みなどにはクラゲのために全国各地へ飛び回るといふ、クラゲに関する愛は誰にも負けない、という強い愛を感じた
- ③ 動画と、手持ちのスケッチブックを使いながら、順序よく整理立てたプレゼンができた



自身で採取したクラゲの動画を活用

表彰式/修了式



レベルの高いプレゼンの多さから、審査が難航
急遽「特別賞」として受賞者を追加することに



急遽追加となった「特別賞」を受賞した研究生
家族一丸となってプレゼンの質を高める努力をした
受賞発表の瞬間、お母さんの目には驚きと喜びの涙が



プロジェクト当初、自信を失いリタイアを考えたことも
「私にしかできない発表を」と一念発起し受賞
自作のお菓子をさかなクんに食べてもらう夢も叶え
親子ともに人生の転機ともなるような経験を得た

表彰式/修了式



サプライズでさかなクンが登場した瞬間
この時、既に号泣していました



7ヶ月間のプロジェクト遂行をを称え
さかなクンから修了証書を授与

夢に見たさかなクンに出会えた研究生
調査・研究の行動力は抜群だが、思考整理や発表が苦手で、
一時は「行きたくない」と言ったことも

苦手なプレゼンを動画で克服
当日は「さかなクン賞」まで受賞して最高の笑顔に



15名の研究生に贈られた
さかなクンのネームカードには
一人ひとり異なる自筆のメッセージが

成果報告、全体スケジュール

研究成果発表会/修了式

発表テーマ一覧

発表順	想定開始時間	氏名	学校名	学年	発表タイトル	発表后感想コメント	備考
1	13:45	中平颯星	裾野市立富岡第一小学校	6年	口レンチーニを活用したサメロボット	日本財団 海野常務理事 さかなクン	
2	13:55	井田かれん	東京都葛飾区立水元小学校	6年	Deep Sea OASIS ~深海の生態系~	東海大学 齋藤学部長 さかなクン	
3	14:05	早川航太	富士市立富士第一小学校	5年	メンダコの特徴整理と機能を活かしたアイデア	ことばキャンプ 菅澤代表 さかなクン	
4	14:15	藤島汐希	沼津市立門池小学校	5年	水圧に耐えることができる深海スーツ	日本財団 海野常務理事 さかなクン	
5	14:25	辻知里	静岡大学教育学部附属静岡小学校	5年	オオグソクムシをいかしたデザイン	東海大学 齋藤学部長 さかなクン	
6	14:35	鈴木秀真	沼津市立元吉原小学校	5年	深海生物の寿命はなぜ長い?	ことばキャンプ 菅澤代表 さかなクン	
7	14:45	土屋友梨花	東海大学付属静岡翔洋小学校	6年	どうやって使う?未利用魚	日本財団 海野常務理事 さかなクン	紙芝居

休憩

8	15:05	大本樹	長泉町立長泉小学校	5年	深海のクラゲのすごいいところ	東海大学 齋藤学部長 さかなクン	
9	15:15	大前琴羽	磐田市立富士見小学校	5年	ゴミ回収深海ザメロボット	ことばキャンプ 菅澤代表 さかなクン	標本見せる
10	15:25	岡田結人	清水入江小学校	5年	水圧に負けない~深海のテーマパークを作ろう~	日本財団 海野常務理事 さかなクン	
11	15:35	岡本理花	静岡県焼津市立黒石小学校	6年	デザートは美味しく、ゴミは楽しく♪	東海大学 齋藤学部長 さかなクン	お菓子現物見せる
12	15:45	井藤龍希	富士市立青葉台小学校	5年	タカアシガニの特性を利用した深海探査機について	ことばキャンプ 菅澤代表 さかなクン	フリップ
13	15:55	廣瀬翔太郎	沼津市立片浜小学校	6年	深海生物を使った次世代エネルギー	日本財団 海野常務理事 さかなクン	
14	16:05	眞田紗希	沼津市立第五小学校	5年	深海魚の新たな活用法	東海大学 齋藤学部長 さかなクン	
15	16:15	佐々木蒼大	神奈川県横浜市立西本郷小学校	6年	日本一深い海、駿河湾のゴミについて	ことばキャンプ 菅澤代表 さかなクン	

受賞者

「深海研究スーパーキッズ大賞」

「さかなクン賞」

「日本財団賞」

「海洋研究賞」

「プレゼンテーション賞」

「特別賞」

廣瀬翔太郎くん 「深海生物を使った次世代エネルギー」

大前琴羽さん 「ゴミ回収深海ザメロボット」

岡本理花さん 「デザートは美味しく、ゴミは楽しく♪」

辻知里さん 「オオグソクムシをいかしたデザイン」

早川航太くん 「メンダコの特徴整理と機能を活かしたアイデア」

井藤龍希くん 「タカアシガニの特性を利用した深海探査機について」

募集開始時メディア露出

募集告知メディア露出

- ◇TVCM放送回数 計**32**回
- ◇新聞広告掲載（全5段）回数 計**6**回
- ◇新聞記事掲載回数 計**2**回



2022.5.8 こども新聞YOMOっと静岡

小学5、6年対象
 深海研究参加募集
 6月から講座など
 一般社団法人シヅカ
 リは小学5、6年生を
 対象とした「深海研究
 スーパーキッズ育成
 プロジェクト」の参加者
 を募集している。日本
 財団の「海と日本プロ
 ジェクト」の一環で、
 次世代の海洋専門リ
 ー
 ーの育成を目指す。
 県内で深海の専門家
 による講座を受けた
 り、フィールドワー
 クを行ったりする。6月
 から来年1月まで計11
 回実施予定。プロジェ
 クト終結後それぞれ関
 心のあるテーマについ
 て掘り下げ、報告動画
 の作成に挑戦する。
 定員は15名程度。参
 加無料。応募サイトか
 らエントリーシートを
 ダウンロードし、郵送
 でプロジェクト事務局
 に送る。締め切りは5
 月27日必着。問い合わせ
 せは同事務局へ電05
 4(281)9009へ。

2022.4.22静岡新聞



静岡新聞全5段広告

TVCM素材(15秒)



深海について学んだことを付箋に書いて手紙の形に貼って、沼津市立片浜小6年の広瀬探太郎君(11)は「初めての講義で緊張しましたが、参加者の仲が深まって良かった。」

深海の秘密に興味津々 沼津高専で小学生向け講義

海に精通する人材の「沼津市立片浜小6」の育成を目指す「深海研究」が、県内外の小学校5、6年生を対象に、7月15日(土)に沼津高専で実施された。今年15人が参加し、沼津高専の先生から「深海の秘密」について学んだ。

沼津高専の生徒も参加し、生徒が進んでいる深海調査の報告と海底に生息する「オオグソクムシ」の行動観察の様子の発表があった。イベントの最後には児童がグループになり、分かったことや調べてみたいと思ったことを付箋に書いて、内容を共有した。

2022.6.28 静岡新聞 ※第1回基礎講座の様子



深海について進めてきた研究を発表する場面。静岡清水区の東海大海洋学博物館。沼津市立片浜小6年の児童が発表している様子。

深海研究児童プレゼン

静岡で発表会大賞に広瀬君片浜小

深海専門知識を身につけた「一般法人シズカ海洋博物館」が、小学生を対象に「深海研究」の成果を発表する「深海研究発表会」を開催した。今年15人が参加し、沼津高専の先生から「深海の秘密」について学んだ。

物の長寿命を人類にも生かそうとする試みや、漁獲された魚を捨てられる未利用魚を食料不足が懸念される将来のタンパク源として活用する「アップ」な取り組みが、各目的の研究を披露した。あらかじめ撮影した動画を使ってプレゼンテーションを行った。発表方法は、各自が発表の順番を事前に決めておき、発表の順番通りに発表を行った。発表の順番は、発表の順番通りに発表を行った。発表の順番は、発表の順番通りに発表を行った。

2023.1.29 静岡新聞掲載 ※研究成果発表会の様子

Large newspaper clipping from Sunfront 21 magazine. The main article is titled '風は東から' (The Wind is from the East) and discusses local resources and tourism. It features photos of children at a school workshop and a lecture hall. The article is part of a series of interviews with local business leaders. At the bottom, there is an advertisement for '観音温泉 産土亭' (Kannon Onsen Sandaitei) which has been renovated and reopened.

2022.7.22 静岡新聞掲載 ※第2回基礎講座の様子

2022.12.13 SBSテレビ「お買い物いいね」北九州コンテストについての露出

(ナレーション)

日本財団「海と日本プロジェクト」の一環で
静岡の地から海洋専門リーダー人材を
育てるべく、深海研究スーパーキッズ育成プ
ロジェクトが本年実施されています。

そのプロジェクト内で沼津高専協力のもと、
プログラミングを活用した深海生物を
模したごみ拾いロボットを製作しました。

この度、北九州市で実施された
「海のお掃除プラント&夢コンテスト2022」に
応募したところ、全119点の応募の中から、
辻知里さんの作品が企業賞に、
大前琴羽さんの作品が審査員特別賞に
輝きました。

今後のキッズの成長が楽しみです。



2023.1.29 SBSテレビ・ストレートニュースでの露出

(ナレーション)

深海マニアの小学生たちによる
研究発表会が、静岡市の東海大学海洋博物館で行
われました。

このプロジェクトは、一般社団法人シヅクリが開いた
もので、日本で最も深い海、駿河湾のある静岡から、
海洋・深海のプロフェッショナル人材を育てようと行
われました。

小学生たちは、メンダコやオオグソクムシなど、深海
の生き物について、手作りの動画を使ってわかりや
すく説明していました。

キッズ

「発表している最中は楽しくて、緊張していることを
忘れてずっと話していました

特にロレンチーにはわかっていないことが多いので、
わかっていないことを自分で調べて明らかにしたい
と思います」

スペシャルゲストには、魚類学者でタレントのさかな
クンが登場し、子どもたちは熱心にアドバイスを聞
いていました。



二次的波及（参加者の行動変容・意識変容）

廣瀬君お母さまからのメール

（さかなを触れるようになったとの前段があり）

ご連絡ありがとうございます。

そして

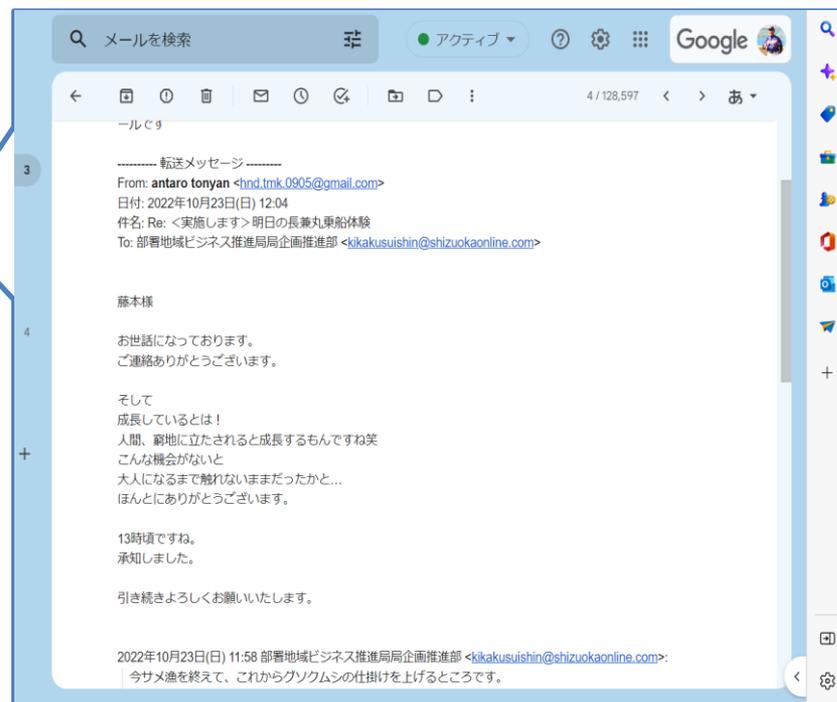
成長しているとは！

人間、窮地に立たされると成長するもんですね笑

こんな機会がないと

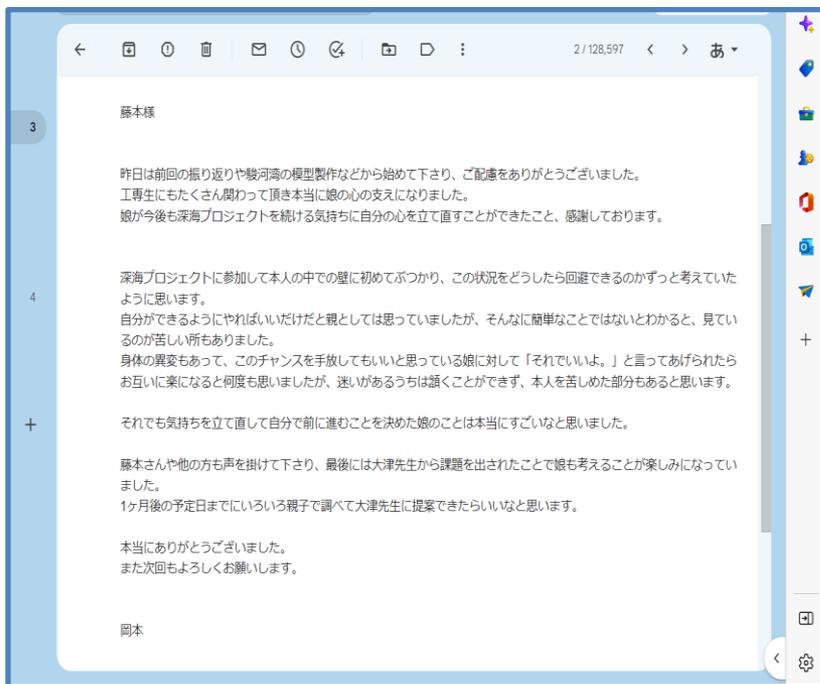
大人になるまで触れないままだったかと...

ほんとにありがとうございます。



岡本さんお母さまからのメール

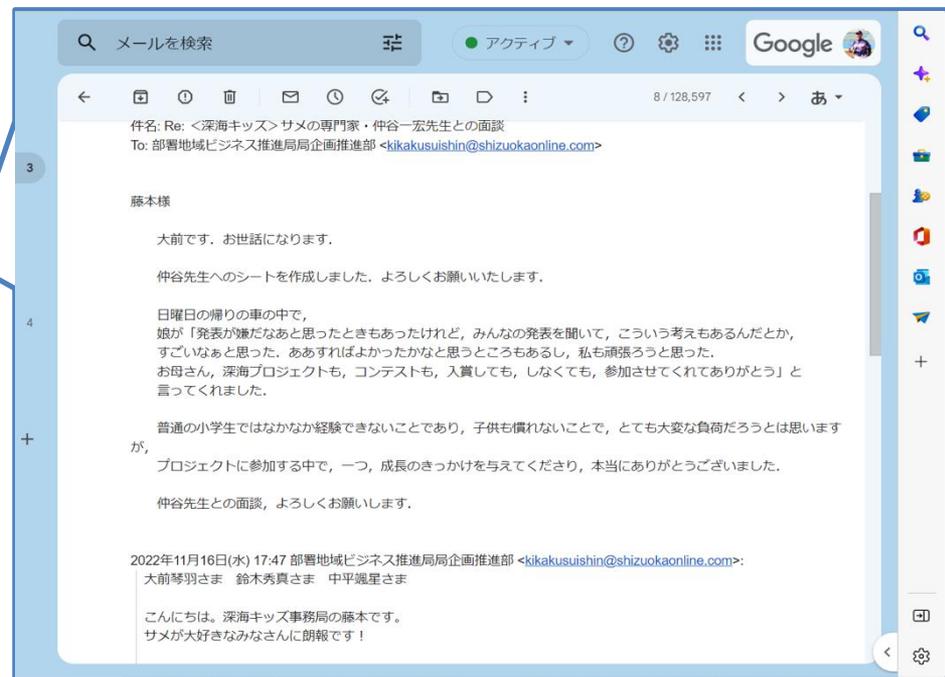
昨日は前回の振り返りや駿河湾の模型製作などから始めて下さり、ご配慮をありがとうございました。工専生にも**たくさん関わって頂き本当に娘の心の支えになりました**。娘が今後も深海プロジェクトを続ける気持ちに自分の心を立て直すことができたこと、感謝しております。**深海プロジェクトに参加して本人の中での壁に初めてぶつかり、この状況をどうしたら回避できるのかずっと考えていたように思います**。自分ができるようにやればいだけだと親としては思っていたが、そんなに簡単なことではないとわかと、見ているのが苦しい所もありました。身体の異変もあって、このチャンスを手放してもいいと思っている娘に対して「それでいいよ。」と言ってあげられたらお互いに楽になると何度も思いましたが、迷いがあるうちは譲ることができず、本人を苦しめた部分もあると思います。**それでも気持ちを立て直して自分で前に進むことを決めた娘のことは本当にすごいなと思いました**。藤本さんや他の方も声を掛けて下さり、最後には大津先生から課題を出されたことで娘も考えることが楽しみになっていました。1ヶ月後の予定日までいろいろな親子で調べて大津先生に提案できたらいいなと思います。本当にありがとうございました。また次回もよろしくお願いたします。



二次的波及（参加者の行動変容・意識変容）

大前さんのお母様からのメール

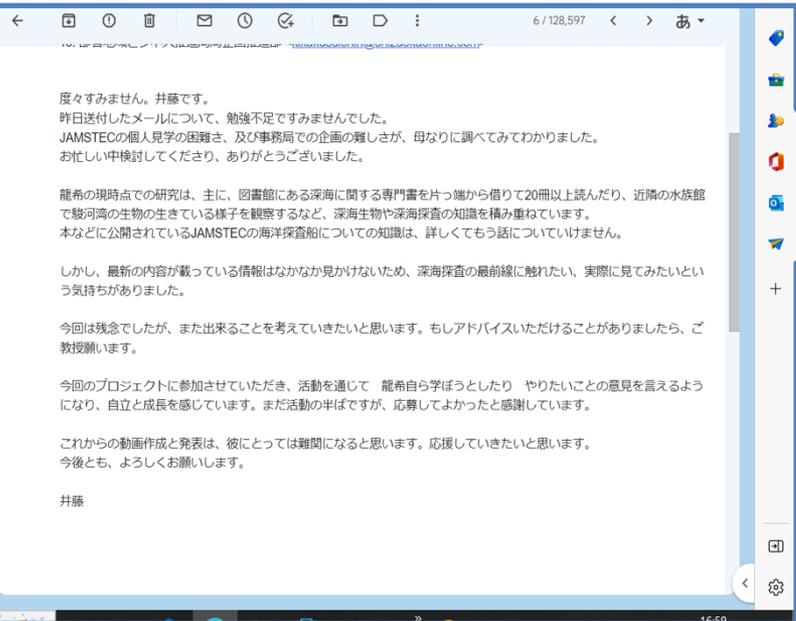
日曜日の帰りの車の中で、娘が「発表が嫌だなあと思ったときもあったけれど、みんなの発表を聞いて、こういう考えもあるんだとか、すごいなあと思った。ああすればよかったかなと思うところもあるし、私も頑張ろうと思った。お母さん、深海プロジェクトも、コンテストも、入賞しても、しなくても、参加させてくれてありがとう」と言ってくれました。普通の小学生ではなかなか経験できないことであり、子供も慣れないことで、とても大変な負荷だろうとは思いますが、プロジェクトに参加する中で、一つ、成長のきっかけを与えてくださり、本当にありがとうございました。



井藤くんお母さまからのメール

龍希の現時点での研究は、主に、**図書館にある深海に関する専門書を片っ端から借りて20冊以上読んだり**、近隣の水族館で駿河湾の生物の生きている様子を観察するなど、深海生物や深海探査の知識を積み重ねています。本などに公開されているJAMSTECの海洋探査船についての知識は、詳しくてもう話についていけません。

(中略) 今回のプロジェクトに参加させていただき、活動を通じて **龍希自ら学ぼうとしたり やりたいことの意見を言えるようになり、自立と成長を感じています**。まだ活動の半ばですが、応募してよかったと感謝しています。これからの動画作成と発表は、彼にとっては難関になると思います。応援していきたいと思っています。今後とも、よろしくお願ひします。



二次的波及（参加者の行動変容・意識変容）

発表会を終えて寄せられた保護者からのメール

今日までお疲れさまでした。
プロジェクトでは初めからご心配、ご迷惑をお掛けしていました。
その度に励ましのお言葉を頂きありがとうございました。

娘が感じた劣等感や諦め等、今まで味わったことがないどん底を知って、そこからの気持ちの立直しには時間がかかりました。
人と比べ、自分に自信が持てなく迷うこともありましたが「自分が好きなこと」を貫きつつ、疑問に思ったことを深掘りして見つけた発表テーマ。
12月は受験勉強と両立しながら、パパッと編集も読みの原稿も作って、よくまとめたなーと感心しました。
やる気スイッチを他人に押ししてもらってばかりいた娘が、最後により自分のスイッチを見つけて自分で押せたことはとても成長を感じました。
賞を受賞した娘も本当に本当に嬉しかったようで、「やって良かった～」とスッキリした表情を見せてくれました。
子どもの可能性は無限ですね。
今後も楽しみです。

諦めずに背中を押していただき、たくさんの方との出会うきっかけを作って下さり本当に藤本さんをはじめ、関わって頂いた方々には感謝しかありません。
本当にありがとうございました。

本日はありがとうございました！

翔太郎が大賞を取ったと聞き、驚きと嬉しさで胸がいっぱいになり、
また、それと同時にもう次は無いのか…と寂しい気持ちにもなりました。

この数ヶ月、このプロジェクトでしか学べない、体験できないことばかりで、参加させていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

藤本さんにもたくさんのアドバイスをいただいたこと、面談などの設定もしていただいたこと、
とても心強く、いつも支えていただいたこと、きっとこの先親子共々忘れることはありません！

是非、来年も再来年もこのプロジェクトを続けて、
より多くの子どもの夢を叶えてあげるきっかけを作り続けていただけたら嬉しいです。

半年間、大変お世話になりました。
無事、研究発表も終わりホッとするとともに寂しい気持ちになりました。
同じ夢や志をもつ仲間に出会えたこと、普段関わることができないプロの方たちと接する機会、さらにはそこからのご縁で多くの貴重な体験をさせていただき、本当に感謝しております。
今までは『生き物が好き！』というだけでしたが、このプロジェクトを通して、その興味から視野を広げて次に繋げる、活かしていくことを学び、自分の夢への気持ちが強くなったと感じております。また、ひとつのことをやり遂げた達成感から親から見ても一皮むけたように思います。
夢の達成まで、まだ道のりは長いですが、つまずいた時やくじけそうになった時に、今回体験したことが本人の糧となると思います。
素晴らしいプロジェクトな参加させていただき、本当にありがとうございました。

二次的波及（参加者の行動変容・意識変容）

発表会を終えて寄せられた保護者からのメール

大前琴羽の母です。お世話になります。長文になります。

土曜日の研究成果発表会、みんなすごい子ばかりだなあ！と感心してしまいました。TV放送、楽しみにしています！

今更なのですが、私達親子は応募内容をあまり理解できないまま、深海好き、なんだかかわかんないけどやってみよう！という気持ちで応募してしまったため、娘に「私、発表するなんて、知らなかった！」とよく責められました。（よくみると、書いてありました）こんなにスケールが大きい事になるとは、まったく想像していなかったのです。

期限もなにかとありましたので、私の子供をせかさないといけない時もあり、子供にとって好きなことのはずだけれど、せかさずことで、好きなことが嫌いになってしまわないかと、心配・葛藤した時もありました。

そんなプロジェクトが終わりましたが、本当に感謝しかありません。

行きたかった深海水族館、それも裏側までみれてしまったこと、あこがれの長谷川さんの船に乗れたこと、欲しかったアゴの標本を自分で作って、没頭できたこと、自分で考えたロボットが形になって、さらにコンテストに入賞できたこと、サメのスペシャリスト仲谷先生とお話できたこと（心臓ばくばく）、講演会で遠くからながめることしかできなかったさかなクンに会えて、賞までいただけたこと。

いろんな夢が、一気に、かないすぎてしまいました！さすがSBS！本当にありがとうございます。

ちなみに、私も、人生でやりたいことの一つ「オオグソクムシを食べる」夢がかないましたし、（司会の）鬼頭ちゃんにも会えました。深海水族館に連れていきたいけど、遠くて、連れていく勇気がなかったのですが、沼津まで運転する覚悟を決めるきっかけを与えてくれ、沼津にも詳しくなりました。待っている間は、大河館や三島大社、アウトレットにも行ってきました。SBS周辺にも詳しくなりました。

親子ともども、成長させてもらいました。

元気がよいため、前向きで強そうに一見みえますが、実は繊細で、傷つきやすい娘です。苦しくもあり、楽しくもあり、この半年の充実した時間は、何かしら今後の彼女の人生に大きな影響を与えるはずに違いない！と思っています。

藤本さん、大津先生、たこくんのお父さん、もっちーさんなど、みなさんが温かく、子供たちも心を開けたんだろうなあと思います。

この半年の間に、なりたい職業もころころ変わりましたが、「藤本さんのような企画のお仕事もいいなあ、だとすると、SBSに就職すればいいのかと考えた」というときもありましたし、昨日は「研究もいいけど、さかなクンのように、みんなに魚のことを、わかりやすく伝えられる人にもなりたいな」とも言っていました。

これからしばらくは、ぼっかり穴があいてしまいますが、また夢中になることをみつけて、取り組んでいけたらと思います。本当に心から感謝申し上げます。どうもありがとうございました。